

「気候変動下の食料生産の確保に向けた研究最前線」

日時：2025年3月16日（日）13:00～17:30

会場：東京大学弥生講堂・オンライン配信

参加：会場参加 300名（直接会場にお越しください）

オンライン参加 500名（要事前登録）

後援：東京大学大学院農学生命科学研究科、ワールドウォッチジャパン

趣旨： かつて体験したことのない雨量や気温による災害は、日本のみならず世界で頻発している。マスコミでも「気候変動」は、災害のみならず農業生産にも大きな影響を及ぼしている現状が広く報じられている。こうした降水量や気温などの物理的環境の変化は、害虫や病原菌の北上など、作物の生物的環境の変化ももたらす。

地球温暖化を抑制するための取組（緩和策）が推進されているが、地球温暖化が進行した気候での食料の安定供給を実現するための研究開発（適応策）も取り組まれている。本シンポジウムでは、作物栽培を対象として進められている、これら変化への適応策を中心に研究最前線を紹介し「食の未来」を考える機会としたい。

■プログラム

- | | | | |
|-------------|-----------------------------------|------------------|--------|
| 総合司会： | | (公財) 農学会常務理事 | 中嶋康博 |
| 13:00～13:05 | 開会挨拶 | (公財) 農学会会長 | 丹下 健 |
| 13:05～13:40 | 気候変動下の食料生産：日本の稲作への影響と適応を事例として | 農研機構 農業環境研究部門 | 長谷川 利拡 |
| 13:40～14:15 | ゼロエミッション植物工場～植物工場の社会的・文化的な普及に向けて～ | NPO 植物工場研究会 | 林 絵理 |
| 14:15～14:50 | 作物による硝化抑制で地球環境にやさしい効率のよい食料生産を | 国際農林水産業研究センター | 吉橋 忠 |
| 14:50～15:05 | ——休憩 15分—— | | |
| 15:05～15:40 | 気候変動に応えるデータ駆動型育種：品種改良の新たな可能性 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | 岩田 洋佳 |
| 15:40～16:15 | 遺伝資源開発による高温・乾燥耐性コムギ育種への挑戦 | 鳥取大学乾燥地研究センター | 辻本 壽 |
| 16:15～16:25 | ——休憩 10分—— | | |
| 16:25～17:25 | 総合討論 | 司会進行 | |
| | | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | 磯部 祥子 |
| 17:25～17:30 | 閉会挨拶 | 日本農学アカデミー副会長 | 佐々木 昭博 |